

ラベルの記入について

プログラム期間中、「ラベル」に心が動いた場面を記録し、共有します。1 年生がフィールド体験実習Ⅰで記入するラベルと同じものです。小さな心の動きを意識してキャッチしてみてください。この「意識化」が皆さんにとっての学びになります。ラベルを記入したら、他の人達とも共有してみましよう。同じ体験をしているのに意識化されなかった事があるはずです。あ、そうだった…と気づいたら、新たに自分なりのラベルを作ってみてください。同じ体験をしているのに感じたことが違う、ということもあるでしょう。体験談を書くときにも役に立つと思います。ラベルシートは、現地指導教員の先生から受け取ってください。

ラベルの記入方法と注意

- 心が動いた場面をキャッチし、①場面の説明と②どのように心が動いたのかを 1 枚のカードに盛り込んで記述する。(①②と分ける必要はない)
- 書いた日付とサインを入れる。(誰かわかれればフルネームでなくてもよい)
- 第 3 者が読んで場面が描けるように記述する。
- 1 つの要素を 1 枚のラベルに記入する: 日記ではありません。
(複数の要素をあれこれ盛り込まない。1 つのラベルを 2-3 枚に渡って書かない)

書き終わったら、随時現地指導教員の先生に渡してください。

ラベルのサンプル

9/4 宮崎看子	3/20 Kanko M.
チェンマイ最終日、朝一でバンコクに向かうため空港に行った時に、CMU の学生さんが見送ってくれた。お別れの時にハグしてさよならしたのにゲートを通ったら、皆すぐに帰ってしまってちょっと寂しかった。日本人だったら送り人の姿が見えなくなるまで手とか振ったりするけど、やっぱ文化が違うなと感じた。	仁寺洞にて。 ピアスがたくさん売ってあったけど、「つけてみてー」みたいなことを言われて、とてもびっくりした。(韓国人っぽい女の人のはつけてたけど)日本では衛生上のため…とかでつけることはできないのに、衛生面の認識が低いのかなあと思った。

注) 以下、参加学生が「心が動いた場面」を記録カードへ記入した内容を一部転記したものである。3つの中位項目（[1]生活に関する表象像の広がり，[2] 自己と他者の違い・共通性に気付く，[3]相手の思いを知るとはどのようなことか）は、予め教員が想定したプログラム参加によって期待される効果として教員側が想定した3本の柱であり、各下位項目は、企画者が想定した気づきの観点である。記述が欠けている項目は記録カードへの記述が見られなかった観点を意味する。企画によって気づきの観点が異なることは想定しているが、各プログラム企画者の想定と実際の学生の気づきにずれがあった場合、次のプログラム企画や現地指導教員の役割に工夫を加え、看護大学生によりよい学びを提供するプログラム作りを目指している

韓国異文化体験プログラム 学生の記録カードより

【1】生活に関する表象像の広がり

(1) 食

- ・昼食で韓定食のおみせに行った。たくさんの種類のおかずが出てきたが韓国では大きな器にもりつけられている料理をみんなでとりながら食べるスタイルが一般的である。日本は1人分ずつで出てくるのが一般的なので大きな違いだと思った。

- ・ホームステイ先でキンパ作りをした。日本ののり巻きとあまり変わらない作り方だったが、ご飯は酢めしではなかった。また、具材も天ぷらや細切りのにんじんと少し違うものがあり、日本と違うんだと感じた。

- ・食事をする際に、韓国の定食屋さんなどは非常に量が多いと感じた。また、1人1人の食べる量も多いと思った。私たちは食べきれずに残してしまったので、少し申し訳なく思った。

(2) 衣

(3) 住居

(4) 清潔・衛生

- ・明洞の街中を探索した時のこと。街には多くの人と屋台があるれていた。道路をみてもとたくさんのゴミが捨てられていた。日本では祭などでゴミ箱がおかれ分別して捨てるのが普通であるので、そういう点で意識の違いがあると思った。

(5) 日課・定期的習慣

(6) 物価

(7) 交通

- ・光州初日。光州の街中を歩いていると、日本と異なり、クラクションをならす車の数が多い

かったり、急ブレーキを踏む機会が多いと感じた。安全運転に対する意識に違いがあると思った。

- ・一日目に引き続き、朝鮮大学の教授の方の車に乗せてもらい移動した。移動中に周りを走っている車の車種が気になり、じっと周りの車を見ていたが、日本の”軽自動車”のような車は見あたらず、”軽自動車”があるのは日本だけなのかと疑問に思いました。

- ・ソウルにて、街行く車の特徴が気になった。日本ではあらゆる大きさのあらゆる色の車がいるのに対して韓国では、軽がほとんどおらず、セダンが多く、色も黒、白、シルバーがほとんどだった。どうしてだろうかと気になった。

(8) 健康・美容・医療

- ・サンム病院の見学で国家対策の感染症患者のためにある病室を見させてもらった。出入り口は2重になっており、気圧といった病室の状況を保つために片方の扉が開いている間はもう片方の扉が開かないようになっていたり、ベランダはリモコンで動かし実際にふれることがないような造りになっていて驚いた。

- ・W 女性病院では、母親が安全で快適に出産できるように、マッサージのサービスを受けられたり、傷の治りが早くなるように温める機械があったりして、とても良い環境だと思った。私もこんなところで出産したいと思った。

- ・仁寺洞に行った際、韓方博物館に行った。病院と併設していて、薬の処方などを行ったり、調ごうなどを行っているようだった。韓方は今までよく知らなかったが、多くの種類のものがあって驚いた。

(9) 制度・社会的環境

- ・弘大のゲストハウスにむかってい時に工事現場の近くを通った。日本では近くを歩く人の安全を守るためにネットがかけられたりしているが、韓国ではそのような対策はされておらず、工事現場が丸見えでほこりやがらくたもポロポロとおちてきていた。とても危険であると感じた。

- ・北朝鮮と韓国との国境を見学するツアーに参加した。軍人さんがたくさんいて、本物の銃を持っていた。監視カメラもたくさんあり、緊迫した雰囲気とても怖かった。戦争がこの世からなくなしてほしいと思った。(軍人さんがとてもイケメンだった)

(10) 経済

(11) 教育・学校・学生生活

- ・朝鮮大学の中を車で移動した。大学はとても広く、大学入り口から看護学生用の建物まで移動するのに約5分から10分ほどかかった。また、大学の敷地内に幼稚園やアメフトのコート、サッカーのコート、屋外ステージなどがあり、実際にこの日は屋外ステージがある場所でバスケの対戦が行われていた。

(12) 動物・ペット

(13) 商業

・買い物をしている時、私が日本人だと分かったら、店員さんが日本語で話してくれたり、ゆっくりジェスチャーで話してくれたりしたのでうれしかった。日本の観光客が多いので、対応には慣れているのだと思った。

・南大門市場に行った時にものすごくたくさんのお店が立ち並んでいた。そこには、服、くつ、かばんなどから食品や韓国お土産の店まで様々あった。日本ではこんなにいろいろな種類のお店があることはあまりないので、めずらしいと思った。

・明洞にて。土曜日の夜というのもあったが、非常に多くの人がいて、大きな通りの真ん中に屋台がたくさん立ち並んでいた。毎日やっていて日本の特に宮崎ではあまりないことなので驚いた。

・今日は、街に出てショッピングをした。夜21時ごろだったのにほとんどのお店が開いていた。日本では飲食店以外のお店が夜遅くまで開いている所があまりないので驚いた。

(14) 気候・自然・地形・地理

・ソウルの街を歩いていると、たくさん坂があることが分かった。多くのビルが立ち並ぶような都会な場所でも坂道が多く、歩くのにとっても疲れた。ソウル全体ではどんな地形をしているのか気になった。

(15) 世界の中の位置づけ

(16) 言語・文化・歴史

・518国立墓地では民主主義を訴え、国と闘った人々の努力や思いを学ぶことができた。今まで社会などで民主主義運動について勉強してきたが、ここまで深く考えたことがなかったのととてもつらいと思った。

・板門店のツアーに参加した。ツアーでは北朝鮮と韓国の国境を高い場所から見たり、実際に建物の中で国境を越えたりした。ツアー中に軍人の方が遊んでいる様子を見たが、国境付近になると少しも動かず人形のように立っている軍人さんがいて、とても緊張した。

【 2 】 自己と他者の違い・共通性に気付く

(1) 健康観

・壁画村を歩いていた時、高齢者の方々が筋トレをしていたり、バドミントンをしていたりと、体を動かしていた。韓国の人々はよく運動していると感じた。

(2) 家族観

(3) 子育てのあり方

(4) 職業観・働き方

・病院見学をした時、日本ではきっちり髪の毛をまとめ、ピアスなどをしてはいけないが、韓国の看護師をみるとピアスをしたままの人や髪がまとまっていない人がいるとわか

った。清潔面に対する意識に違いがあるということ実感した。

(5) 歴史観

(6) 宗教観・信仰心

.

(7) 感情表現・感情のツボ

(8) 物の使い方

(9) 金銭感覚

(10) 人生観

(11) 対人・コミュニケーション

・夕食の後、7時半ごろから南山タワーに向かった。モノレール乗り場まで多くの人が並んでおり、モノレールまでに30分ほどかかった。この待ち時間に周りの人の様子をチラ見していたら、恋人同士と思われる人々がハグしていたり、腕をからめたりしていたので驚いた。

・韓国で見かけるカップルはとて多いのだが、そのスキンシップにおどろいた。特に男性から女性へのスキンシップが多くて、目のやり場に困ることが多々あった。周りの目を気にしていない様子だった。

・DMZ&JSA ツアーに参加した時のこと。JSA ツアーのバスの中で外国人観光客ばかりであったが、日本人以外の外国人の方は担当の人が説明したあとに質問はないかと尋ねられると積極的に手を挙げて質問していた。日本人は恥ずかしがってなかなか発言しないけど、積極的に発言しているのがすごいと思った。

(12) 教育・学習観

.

(13) 異性・恋愛観

(14) 愛国心・忠誠心

(15) 外国語・異文化への関心

(16) 美容・ファッションへのあり方

(17) 道徳観・マナー・感覚

・弘大を歩いている時のこと。目の前から歩いてきていた男性が通りすぎる時に道につばをはいた。日本の常識で考えると信じられないような行動なのでとても驚いた。

(18) しぐさ・姿勢

(19) 生活習慣

(20) 時間の感覚

(21) 色彩感覚

【3】相手の思いを知るとはどういうことか

(1) コミュニケーションのあり方

(2) 関わりによって理解

(3) 共通言語・相手の文化理解

(4) 日本・日本人のイメージを意識

(5) その他

・景福宮に行く前にチマチョゴリを借りに行った時のこと。試着室の前で順番を待っていると海外からの旅行者の方がくつをぬいであがるところにくつのままで入っていった。海外では家の中でもくつのままというところも多いためわからなかったかなと文化の違いを感じた。

【1】生活に関する表象像の広がり

(1) 食

・空港でフードコートがあった。その中にマクドナルドがあって、日本にはないフライドチキン(ケンタッキーのような)があり、たくさんの人(子どもから大人まで)が注文していた。ジュースも L サイズが日本より大きく、国に合わせて、サイズが変わっているんだなと思った。

・午前中の講義の中で 1 つの食品にどれだけ何が入っているか分かりやすく示したものをを見せてもらった。日本にもジュースの中やおかしにどれくらいの量の砂糖が入っているか分かりやすく示したものはあるが、タイには他にも油や塩分がティースプーン何杯分か分かりやすく示したものがあって、健康志向が高いのかなと感じた。

(2) 衣

(3) 住居

・ホテルに泊まってトイレする時、お風呂とトイレの間が壁一枚しかなくて、お風呂の水がトイレの方に飛び散ったりと大変だと感じた。日本ではけっこうトイレとお風呂は分けられているので自分的に少し不潔に感じてしまった。しかし、これが文化の違いなのでしょうがないと思った。異文化に慣れるのはなかなか大変です。

(4) 清潔・衛生

・夜にチェンマイに着いて、ホテルの近くのコンビニへ歩いて行った。首輪の付けていない犬がうろうろしていたり、ゴキブリがたくさんいたり、ゴミがたくさん落ちていた。日本に比べて衛生状態が悪く、様々な感染症を引き起こす危険があると感じた。汚れていることを現地の方は当たり前のようにしていたので、意識を変えていくことが必要だと思った。

・タイの死因 1 位はガンで 2 位は循環器疾患で 3 位は感染症や寄生虫病だということを聞いた。日本では 3 位の原因は考えられないと思った。タイの衛生環境はあまり整っていないことがよく分かった。

(5) 日課・定期的習慣

(6) 物価

(7) 交通

・今日、キャンパスツアーから帰る時のバスで、私は運転手の助手席に座った。日本では助手席に座る時はシートベルトをする事が義務づけられているため、私はシートベルトをしようとしたら、運転手から「NO」と言われた。バイクに乗っているタイ人はヘルメットをしていなかったり、2人乗りをしている人が多く、日本とは決まりが大きく違い危険だなと思った。

(8) 健康・美容・医療

・タイの大学病院に見学に行った時、病室も見学させていただいた。日本のようにナースステーションとかはなく、病室の廊下に机がおいてあって、そこがナースの作業場となっていてとても狭そうだった。ナースステーションがないので廊下で作業していたが机とかがあった分廊下が狭く、ベッドとか通るのかなと思ったし、カルテなど他の人がさわれそうで心配だった。日本はそこがしっかりしていると思った。 個人情報の管理が日本と違うと思った。

・タイの大学病院を見学し、病室を見せていただいた。タイの病室は1部屋に8人で少し狭そうだった。また、ベッドの上にしきりのカーテンなどではなく日本のように自分の空間が作れないと感じた。日本ではカーテンを使ってケアすることもあるのでベッド上で清拭などをするときはどうするのだろうかと思った。これらのことからやはり、カーテンがあった方がプライバシーが守られるし、ストレスを軽減することができるのではないかと思った。

・昼から病院見学に行って、重症度の高い患者から病院内に運ばれ、ストレッチャーに乗っていた患者が外に出されていて、ナースの付き添いもなかった。日本では転移時でもナースが見える場所で待機しているので、外と内の区別もほとんどなく、患者の衛生面や急変時の対応がきになった。

・チェンマイ大学の病院を見学する中でICUの建物を見てまわっていると窓がなく、外とつながっているような待合室のようなところで、普通のようにハトがうろうろしていた。衛生上の問題もあって、日本では考えられないようなことだと思った。

・チェンマイ大学の病院に見学に行った。ドアがなくて、鳩が普通に病院の中にいた。鳥とかは結構菌を持っているイメージだったので、衛生的によくないのではないかと思った。日本は他の生き物や動物が入ってこないようにしてあるのでそこが違うと思った。

・今日はヘルスケアについて午前中レクチャーを受けた。死因NO.1は日本と同じ悪性新生物だった。しかし、平均寿命は10才くらいタイの方が早かった。日本の医療の発展と整った環境が要因だと思った。

・午後からはタイマッサージの体験をした。日本ではマッサージを医療として取り入れてないので、とてもふしぎに思った。

・タイの伝統マッサージでは呪文となえたり、呪文が書かれた道具を使ったりしていた。医療的根拠だけでなく、そういったところも大切にしていることがとても特徴的でおもしろかった。

・死因の第3位に「寄生虫」とあった。最初の日にカリキュラムの中に「寄生虫学」とあったがそれはタイで寄生虫で死亡する人が多いからであるということがわかった。

(9) 制度・社会的環境

・初日、タイのスワンナプーム国際空港で入国審査を受けるゲートの近くに Muslim prayer room があった。どのような場所か調べてみたら、ムスリムの人がお祈りを捧げる場所として使われている部屋だと知った。タイ人はほとんどが仏教徒だけれど様々な国の人が空港を利用するため、このような部屋をつくっているのだと日本にはない一面があることに

驚いた。

・飲んだペットボトルを分別しようと思ってラベルをはがそうと思ったらラベルに切り取りの点線がなく、ラベルがはがせなかった。日本ではキャップやラベルを分別するがタイでは分別する習慣がないのかなと思った。分別しなくていいのは楽だが、地球には優しくないと感じたし、分別は世界みんなで頑張るべきだと思った。

・タイではデイケアという子どもを預かってくれるところがあった。日本ではそういうところがないので、お母さんの負担が大きくなって、産後うつになってしまったりするのかなと思った。子どもと母親が一緒にいることは大事だけど、母親が自分のケアをする時間をとることは大切だと思った。デイケアのようなシステム日本でも取り入れるといいと思う。

・タイではデイケアという子どもを預かってくれる施設があるけれど、ナースが子どもたちを見ていた。1ヵ月から2歳までという幼い子どもたちだから、保育士ではなく、ナースが世話をしていた。タイのナースは助産の資格を持っているために、子どもの知識も豊富でデイケアのような施設を運営しやすいのかなと思った。

(10) 経済

(11) 教育・学校・学生生活

・今日、キャンパスツアーで看護技術を練習する部屋を見学した。その時一体のモデルがあり、スイッチをおすとモデルが本物の人のように心臓が動いたり、目が動いたりしていた。チェンマイ大学では、このモデルで危険な状態を作り、どう対応するか生徒だけで考える授業があると言っていた。MPNUでは、動くモデルはないが、先生が危険な状態をつくって対処するため似たような授業をしているのだとわかった。

・タイの看護教育では水、木、金が主に実習で、MPNUでは半年間ずっと実習なので、実習の仕方が違った。チェンマイは月・火に講義があるため、実習での反省をじっくりできると思った。私たちは講義と実習をわけているけど、分けなくて実習と講義を平行すると、国試での知識を忘れにくいと思った。

・今日はチェンマイ大学の見学をした。看護の見学では乳児の人形や成人の人形など多くの人形を講義で使用していた。脈や尿がとれる人形やIOUにいる人形などさまざまな人形があった。日本ではあまり実習では人形は使わず生徒同士で看護方法を行うのでそこがチェンマイとの違いだと感じた。私たちはイメージで行うことも多いので、人形でも練習台があるのはいいなと思った。

・病院見学の担当ナースの方にタイのナースや医者教育過程や学生生活についておしえていただいた。とてもタイトにいろいろな過程(助産や保健、実習)が詰めこまれていたことにおどろいた。

(12) 動物・ペット

・エレファントキャンプに行った。人とゾウがこんなにも密接に関わっているところを初めて見た。タイではゾウと人がお互いに助けあって生活を築いてきていた。ここでの象は日本の動物園にいるゾウよりとてもいきいきしていた。人が支配する関係ではなく、互いに助け

合う関係を築くことが対象の生命力をひき出すのだなとわかった。

- ・エレファントキャンプで、初めてゾウが活動する姿を間近で見ることができたが、パフォーマンスで首を振ったり、大きく鼻をまわしていたりする姿を見て、「サービス精神」を感じた。ゾウは自分が想像していたより頭が良いんだとわかった。

- ・メーサ・エレファントキャンプに行き、象のショーを見たり、実際に象に乗ったりした。ショーでは、象がサッカーをしたり、絵をかいたりしていて、とてもかわいかった。しかし、一番驚いたのは象つかい人が上にのろうとすると象が足をさっと曲げていたことだ。長い期間一緒に過ごしたことで、強い信頼関係があるのだなと思った。

- ・午前中にエレファントキャンプに行った。ショーのようなものが始まると、ゾウたちが絵を描いてみたり、サッカーをしたりしていて、こんなに賢い生き物だったんだと驚かされた。日本とちがって象との距離が昔から近かったからこそ、ゾウに物事を教えて一緒に生きていくことができているのかなと考えさせられた。

(13) 商業

- ・現地のタクシーでお店に向かっていると、屋台の人がうちわで車をあおぐようにして、呼び込みをしていた。日本では歩いている客がメインなのに、タイでは乗り物に乗っている人が主なターゲットになっていた。タイはバイクも車の量も多いので、国の特徴に合わせてた商売の仕方をしていると思った。

- ・エレファントキャンプで、ゾウに乗った。ゾウ使いの人は少しだけ日本語が話せて、日本人も多く訪れることがわかった。「お金、お金」と何度も手をだしてきて、ゾウ使いの人々はあまり裕福な生活をしていないのかと思った。

- ・生きていて初めてゾウの上に乗った。乗ったといってもゾウの背中にひもなどでイスを固定した上に座っただけだったがかなりの高さで結構揺れた。でも日本では味わえないので楽しかった。ゾウ使いの人に **iphone** を渡すとゾウの鼻先の方へかなり下がって写真をとってくれて、ありがたかったけど、落ちないかいハラハラした。日本だと危険行為はやめて下さいと言われそうなことだと思い文化の違いを感じた。

(14) 気候・自然・地形・地理

(15) 世界の中の位置づけ

(16) 言語・文化・歴史

- ・チェンマイのボタニカルガーデンに行った。様々な植物があるのはもちろん、驚くことに、日本や中国、アフリカ地域の庭園をイメージしたコーナーが広範囲に渡ってつくられていた。また、タイの王様の歴史が本人の写真と一緒に寺へと続く歩道の両端に大きな看板の様に並べられていた。王様の写真をあらゆる場所に飾っているのを見て、影響力の強さを感じ、タイの歴史を目で見ることができた。

【 2 】 自己と他者の違い・共通性に気付く

(1) 健康観

・タイ人は年齢問わず、ランニングをしたり、公園に健康器具があったり、集まって体操している人を見かけた。健康意欲が高いと思った。

・タイ式マッサージの学校へ行きマッサージを体験した。仏教色がとても強くて効きめがあるのかと疑問に思った。日本では仏教だけど、そんなに強くなってそういうものを信じている人がいて、そういう人にとってはとても効果があるのだろうと思った。

・タイでは音楽に合わせて足を動かしたり、動きを覚えることで頭を動かしたり、病院にエアロバイクがおいてあったりした。日本でも、高齢者が運動を心かけたり、食事に気をつかったり、健康思考である。少子高齢化の中、どれだけ健康寿命を延ばし、労働世代の負担を減らすか、健康思考が注目されていることを実感した。

・老人看護の講義で、タイでも老人の健康のために高血圧や糖尿病を含む慢性の病気や障害にならないためのケアがあった。日本でも生活習慣病にかかる人が多く、タイでも同じように、食べているものは違えど、多食文化の影響が生活習慣病に焦点をあてたケアも行われていることが分かった。

・午前中の老人看護の講義の中でタイの老人の70%以上は歯が20本より少なく義歯をつけていると言っていた。日本は8020運動があって小学生のころから80歳まで20本の歯を残せるように教育をうけているので、タイにはそういう教育がないのかなと思った。

(2) 家族観

(3) 子育てのあり方

・タイの授乳についての講義を受けて、母乳率がタイは23.1%、日本は30%と低くてとても驚いた。私自身、母乳で育ったので、こんなに低いと思っていなかった。母乳は赤ちゃんにもお母さんにも良いことだらけだが、母乳で育てたいと思っている家族や育児に困っている家族に無理に母乳を押しつけることはストレスになるため、無理に押しつけることはしてはいけないと学んだ。

・今日、Health Promotion Centerを見学した時保育園を見に行ったら。タイは子どもを母乳で育てる育児方法を推進しているため、子どもを保育園にあずけるためには子どもを母乳で育てていなければならないという決まりがあることに驚いた。

・今日の「タイの授乳、育児」についての講義でタイでは母乳をプラスチックの用器や袋に入れて冷凍して保存していた。そのため、いつでも母乳が飲めるようにしていたし、デイクアなどでも母乳を施設にあずけていた。日本ではそこまで徹底して母乳はあげてないのでかなり母乳での発育に力を入れていると感じた。しかし、それに力を入れすぎて、母体に負担をかけすぎてはいけないと思ったのでやはり無理のない程度にミルクは大事だと思った。

・タイの産婦人科では出産を終えた女性とその旦那さんやその家族が病室に一緒にいられるような仕組みになっていた。また、タイでは旦那さんが妊婦さんをしっかりと手伝ったりサポートしていたりした。日本では出産の立ち合いも妊婦さんだけや旦那さんがつけられ

いことは良くあるので旦那さんが出産前からサポートしてくれるのはとても心強いと思った。しかし、それは育児に対する制度が良くなしないと難しいと感じた。

・BFは母親にも赤ちゃんにもよいことであり東南アジアでは50%を超える妊婦が実践しているのに、日本では30%未満であるということにとってもおどろいた。

(4) 職業観・働き方

・

(5) 歴史観

(6) 宗教観・信仰心

・タイのバンコクの空港に到着して、空港内を探索した。ムスリムの pray room があり、何人もそこでお祈りしているのを見て、世界中から様々な宗教の人々が集まっているということを実感した。すれ違う人々の話している声も福岡空港と比べてもかなり異なり、圧倒的に日本人よりも外国人が多かったのでこそでようやく外国に来たのだという実感がわいた。

・ワット・プラタート・ドイ・ステープ(寺) 300段の階段を上り、寺を見学した。階段を上った先に見えたのは、黄金色に輝く仏像と寺だった。多くの外国人観光客と共に礼拝している現地の人も多くいた。決められた言葉を云いながら仏堂の周りを3周すると幸せになれるという言いつたえもあると知り、日本との宗教に対するとらえ方の違いに気づくと共に、異文化への興味が高まった。

・ワット・プラタート・ドイ・ステープ寺院を訪れた時、周りに屋台が出ていたり、音楽が流れていたり、寺院の色がカラフルだった。日本のお寺は静かで音楽もいつも流れているわけではないので、祈る場所ということは同じでも国ごとの特徴があるんだなと思った。

・ワット・プラタート・ドイ・ステープ(寺) ここでは、参拝者はくつを脱いで屋外の寺院を廻ることになっていた。そこで、自分たちの国ではないようなめずらしいしきたりにとっても驚いてわくわくもした。雨上がりの石の地面の冷たさが心地よかった。

・ワット・プラタート・ドイ・ステープというチェンマイを一望できるくらい高い山の上にあるお寺に行った。車を降りてからかなり急な階段を三百段登ると、やっと到着した。くつをぬいではだして寺内に入ると金色の建物が目に飛び込んできた。奥に入るとおぼうさんがいて、参拝者の男性の手にひもを結んでいた。女性はふれられないのでどうするのかと思っていたら、ひしゃくのようなもので水をかけられてとても驚いた。濡れた。

(7) 感情表現・感情のツボ

(8) 物の使い方

(9) 金銭感覚

・サンデーマーケット 夜の市場にいった。149バーツのものを2個買った。合計で298バーツなので、紙幣で300バーツ払って、2バーツのおつりがくると思ったら何もな

かった。日本ではどんなに細かくてもおつりがくるのにタイではもらえなかった。

(10) 人生観

(11) 対人・コミュニケーション

・空港に着き、換金所の前でレートを見ていると、換金所の人が「おいで」というようにてまねきをして、タイ語で話しかけられた。日本の銀行員は自分から「おいで」と呼んだりせず、フレンドリーな感じではないので、タイの換金所の人には商売人のようだった。性格や文化の違いかなと思った。

・2日目に、Royal Flora に行った時、小さなバスにのって観光をした。私は一番後ろの席にのっていた。すると、後ろから別のバスが近づいてきた。その時に運転手と目があい、運転手は私たちに向けて笑顔で手をふったり「ぷっぷ」とわざとクラクションをならしたりして私たちを楽しませてくれた。タイの人は日本人と違ってフレンドリーだなと思った。

・タイでは34%が三世帯で暮らしていて14%が一人暮らしをしている。日本よりも世帯の結びつきが強くて、また地域の人々の協力体勢も強力だということを知った。タイの人々は日本人よりも人と人の結びつきを大切にしているように感じた。

(12) 教育・学習観

・

(13) 異性・恋愛観

・

(14) 愛国心・忠誠心

・

(15) 外国語・異文化への関心

・

(16) 美容・ファッションへのあり方

(17) 道徳観・マナー・感覚

・帰りの空港でまってる間イスに座ろうと思ったがイスをなん個も使って寝ころがっている人がとても多かった。日本ではできるだけ多くの人が座れるようにイスに寝ころがりはしないので外国との文化の違いだと思った。やはり、日本ではゆずり合いの心があると思った。どんな国にいてもゆずり合いの心は忘れないようにしたい。

(18) しぐさ・姿勢

(19) 生活習慣

(20) 時間の感覚

(21) 色彩感覚

(22) 味覚

【3】相手の思いを知るとはどういうことか

(1) コミュニケーションのあり方

・お昼ご飯を食べに行った時に、タイの子たちが私たちのためにむずをついでくれたりメニューの説明を丁寧にしてくれたり、せんべいのようなものをくれた。すごく気がきくし私たちのためにやってくれていることがうれしかった。

・夕方はパーティーで出し物や夜ご飯を楽しんだ。話す機会のなかった中国の子やFONの子と話すことができてとても嬉しかった。会場を見渡してみるとみんな楽しそうに笑っていて、言語が違っても、笑顔で人と人はつながることができるということを感じることができた。タイに来て良かったと思え、みんなに感謝の気持ちでいっぱいです。

・飛行機を待っている間、ずっとチェンマイ大学の子たちが一緒にいてくれて、それぞれがさまざまなプレゼントをくれた。私は全然英語が話せなくて、チェンマイ大学の子たちともあまりうまく話せなかった。でも、最後の日にはプレゼントもくれて、泣いてくれる子もいて、言葉はうまく伝わらなくても気持ちはしっかりと伝わっているのだと思った。どんな時も感謝の気持ちを忘れずに持っていきたい。

・今日、飛行機に乗る前にチェンマイ大学の生徒たちが会いに来てくれてすごく嬉しかった。また、プレゼントもくれて、自分たちが色々遊ぶところで振りまわしたのに本当に申しわけない気持ちになった。思っていた以上に仲良くなれて、自分も日本からプレゼントを持っていけばよかったと思った。

(2) 関わりによって理解

・昼食をとるためにレストランに入って、リタがメニューの説明をしてくれたので、みんなでお礼を言ったら、リタが「私が日本に行ったときに親切にしてくれたから、そのお礼だよ」と言ってくれた。感謝の気持ちを行動で表してくれていてとても嬉しかった。また、言葉で表すことも大切だが、行動で示すことも大切だということが分かった。

(3) 共通言語・相手の文化理解

・今日はオリエンテーションだった。看護大以外に三重、琉球大、台湾の方たちと一緒に行動した。琉球大の人はオリエンテーションの時、英語で質問などをしていてとても英語のレベルが高かった。なので、少し仲良くなりずらいのかなと思っていたが、校内見学の時に琉球大の人に一言かけると仲良くなれた。タイ人だけではなく、なかなか交流できない琉球など、他の大学の人と仲良くなり、人の輪を広げていくことは大切だと感じた。

・Farewell partyでタイ・中国・琉球の人と交流をした。色々な国の人が混ざって、英語で会話することでまた新たな輪ができた。この海外研修でタイの生徒だけでなく、ほかの国の人とも関わることができたのでいい機会だった。自分がどれだけ英語力があるのかも確かめることができたのでよかった。

(4) 日本・日本人のイメージを意識

・観光地をまわっている時に、日本人はよく何人か集まって撮るけれど、外国人は2人で来ても1人がポーズをきめて、1人が撮影している人が多かった。また、ポーズをとる時にピースをしている人はいなかった。日本人の恥ずかしがり屋なところが写真にも表れていると思った。

・ホテルの近くに日本語のソフトクリーム屋があった。大福に「柔らかい石」という名前が付けられていた。よく日本でも「台所」と書いてあるTシャツがあったから、漢字に人気があるのかもしれないと思った。私たちが、英字やハングル文字のTシャツを着るように、タイ人も日本に興味を持って、世界で異文化を受け入れるようになってきていると思った。

(5) その他

・三重大大学と琉球大学と一緒に活動を通しての学びを発表し合った。タイと日本の医療制度、保険制度の違いなどを改めて学ぶことができた。また、琉球大の方がクリスチャンなのでタイのマッサージスクールに参加することができなかったと言っていたのがとても印象的であった。外見だけでは分からないその人のこと知らなければ、いつの間にか傷つけてしまうこともあるのだなと学んだ。

【1】生活に関する表象像の広がり

(1) 食

・バニサレ看護大学でお昼を御馳走になった時、インドネシアの果物も 4 種ほど用意されていた。1 つは日本のみかん(と同じ品種と思われる) とライチのような果実だった。一つは独特の匂いと食感で好き嫌いの分かれそうな味だなと思った。もう一つの方も食べられるのははじめてだったがこちらはみずみずしい甘酸っぱい味で食べやすかった。

・普通にお茶といわれたので買って飲んでみたらとても甘かった。飲み続けたら健康を害しそうだと感じた。

・FCF のチキンナゲットとライスボールをお昼ごはんに食べた。日本の KFC と同じような感じでとてもおいしかった。お米がボール状になってお肉とでてくるのはびっくりしたが、おいしかったし、チキンにも合っていてよかった。

(2) 衣

(3) 住居

(4) 清潔・衛生

(5) 日課・定期的習慣

(6) 物価

・両替をした。とてもお金持ちになった気分になった。タイの時はケタ数がとても小さかったが、逆にインドネシアでは、とてもケタ数が大きく驚いた。値段が高いように見えて安いことやレートがとても良かったことに嬉しさを感じた。

(7) 交通

・ジャカルタに到着して、人や車、バイクの多さに驚いた人にゆずる日本と異なり、車も人も自分のペースで動いていて、びっくりしたが、日本をは異なる国民性を見つけられて嬉しかった。

・Grab というタクシーを見つけた。バイクが多く、車よりも手頃な値段で乗ることができ、また、バイクなので渋滞にもかかりにくいことから出勤時や少しの移動に便利だなと感じたが、危険だなとも思った(携帯を乗客の人が見ていたりも) ヘルメットはしっかりかぶっていて、タイとの差も感じたし安心した。

・タクシーの量が多かった。車が車線関係なく走っていて驚いた。渋滞が多いから速度制限や信号があまりないということを学んだ。

・パトカーや白バイを街の道路でよく見かけた。皆パトカーがいるのに車線をぐちゃぐちゃに行き来したり、パトカーがクラクションのような音をならして道をあけさせて進んでい

た。日本との違いを感じ、あまり警察と人々の関係性が不思議だなと思った。

・バイクが多い!!!タクシー用のバイクの数がすごかった。車の横の道路のわきを3車線で走っていたり、20台くらいの集団で固まって移動していた。日本だと考えられない…。少し運転技術とかも必要と感じた。

(8) 健康・美容・医療

・ボゴールにある精神科病院訪問にて。まず、敷地がとても広い。看護師の数も500人(精神科250人)と、とても大規模な病院に思えた。精神科と聞いて、閉鎖的なイメージを抱いていたが、今日訪問させていただいた病院は開放的で1人1人の行動が制限されている様子はあまりなく、ビックリした。

・精神科病院でデイケアを利用している患者さんと話す機会があった。1人の女性と1人の男性だった。2人ともリハビリを月～金まで9時～3時通っていて、この病院に来ることで元気になっているように見えた。インドネシアでは家族が多く、家族間のトラブルで精神の病を患うことがある。家族間での雰囲気を感じ取り、沈んでる表情を見せてくれたときが印象深い。

・クリニックに行った。体調を崩してしまい、皆に申し訳ない気持ちにはなったが、「よい経験だよ」と言ってもらえたこと、日本語が通じる病院であったことに安心感があり、存在の大きさを痛感した。初めて手の中に注射をしたことや、おかゆがインドネシアにもあること、皆の対応に嬉しさを感じた。

・精神科の暴飲を訪問した。施設の見学をした後、お話を聞いた。Budi先生がインドネシアの精神領域の母のような人であることや先生が努力をして作り上げてこられた工夫があり驚いた。日本と似たところもあった。アクリル製で窓ができていたり入院patientのくらしやすい工夫もあり、勉強になった。

・大学の学生が実習を行うクリニックに行った。糖尿病が進んできずに気づかず神経が見えるまで放置する患者さんの処置を看護師が行うと聞いた。日本では医師しか行ってはいけないから看護師が行うと聞いて衝撃だった。

・精神科病棟に入院している患者で一番良い人は28日と聞いた。日本では何十年という人がいると聞いたことがあるので28日と聞いて驚いた。しかし、病院の作りやリハビリ内容を聞いてすごく良い効果があるのだと分かった。

(9) 制度・社会的環境

(10) 経済

・ジャカルタでの空港からホテルの道のりで、一般道路が日本の道路のように明るく、整備されていた。つい最近、ジャカルタでアジア大会が開かれたため、以前よりきれいになったとのこと。経済発展の様子がこんなにわかりやすく思えたのがおもしろかった。昔の日本もジャカルタのように発展していったのかもしれない。

・モスクに見学に行った。とても大きなモスクでお祈りの様子を初めて見られた嬉しかった。モスクの前でくつを入れる袋を渡し、それを商売としている人を見て貧富の差を感じた。

また、キリスト教がモスクから見られる場所に連れて行ってもらい、共存性、国民性を見付けられた。

・日本の国家試験を勉強している場所に行く途中の街並みをみると、泊まっているホテルの周りとは全く違う小屋みたいな家がたくさんあった。貧富の差が激しいと思った。

(11) 教育・学校・学生生活

・病院付属の看護大学を見学。大学生たちは制服を着ていたので高校生みたいだと感じた。交流会が始まる前にお祈りの歌を1人の学生が代表で歌い、みんなで聴くという時間があった。イスラム教の大学だから集会があるときには必ずやっっていそうだった。他の時間は自由にしゃべったり、スナックを食べたりしているのに儀式は静かに聞くとところに信仰心を実感した。

看護大学の学生さんがよく行く実習先のクリニックへ。そのクリニックは糖尿病がとても悪化してしまい、手足の皮膚が神経まで侵され、処置をしなければいけない状況になった患者さんがやってくる。神経が麻痺しているため、麻酔もいらない。日本にはあまり見ない処置の仕方だったので見るものすべてが新鮮だった。国によって看護のできる範囲が全く違うのである。

・IMC 看護大学生4年生との交流。1人の学生のお母さんがインドネシアの伝統お菓子を作ってくれたものを食べた。ゴマ団子に似ている見た目で中身は緑色の豆をつぶしたものが入っていた。日本とインドネシアはとても離れた場所にあるのに、風味が和菓子に似ていた。すごい親しみを感じた。

・EPA の勉強の様子を見させていただいた。とても勉強熱心で、10月の審査に合格するために必死に勉強しているのを見て、私も努力しなければならないなと痛感した。一緒に分からないところを考え分かったときには、共に学べて嬉しかったし、分かる楽しさを感じられて良かった。

・国家試験の勉強をしている方と勉強をした時に社会保障について勉強した。日本とインドネシアでは文化が全く違うから在宅での看護についての問題を解くのに苦労していた。文化の違いはとても大きいと感じた。

(12) 動物・ペット

・

(13) 商業

・空港に着いた瞬間、タクシーの呼び込みがたくさんあった。日本では全くない光景だったからびっくりした。

・うさぎの着ぐるみと一緒に写真をとった。しかしその後ポッケを指さして、「money」と言われてお金を渡した。こういうものでお金をとられるのかと思った反面、こういった事でお金を稼いで生活している人もいるのだなと思った。

(14) 気候・自然・地形・地理

・

(15) 世界の中の位置づけ

(16) 言語・文化・歴史

・タマン・ミニにて。インドネシアはいくつもの島々から成り立っている。それぞれの島には伝統的な建物や衣装、動物がいる。日本にも沖縄に琉球王国があったように、同じ国でも文化が大きく異なるという点に着目した。地域それぞれの文化を深く知り、人々の風習を理解したいと感じた。

【 2 】 自己と他者の違い・共通性に気付く

(1) 健康観

・ホテルでのマッサージ体験。外国でマッサージを初めて受けられた。足を中心に強めのマッサージだった。蒸しタオルでふいてもらい、乾いたタオルでふいてもらったときに足浴を思い出した。看護の先生が蒸しタオルで身体をふいてあげるだけでもすごく気持ちいいんだよと言っていた意味がよくわかった。

(2) 家族観

(3) 子育てのあり方

(4) 職業観・働き方

・インドネシアの学生や町を歩く若者など見ていると、日本と同じようにスマホをよく使っている様子が見られ、日本と同じだなと思った。一方で、店番をしている店員もスマホを使っている場面がよく見られ(店番をしながら) 仕事中でもスマホを使っていて良いのは日本では見られない様子で寛容でいいなと思った。

(5) 歴史観

(6) 宗教観・信仰心

・イスラム教のお祈りの場所、モスクにて。観光客と信者の行けるところが分けられていて、日本の神社や寺とは異なる。信仰心の違いをととても実感した。お祈りは1日5回、メッカの方角を必ず向いて、儀式を5分ほどするらしい。お祈りした人は自分の好きなように過ごしていた。寝ている人、友達としゃべっている人などいろんな人が共存しているので寛大な宗教だと感じた。

・アル・アザール大学での交流。 アル・アザール大学の紹介を日本語のスライドでしてくれた。私立大学で理系、文系の学部があり、日本の大学とあまり変わらない。しかし、イスラム教がメインの大学なのでコーランが試験にでるし、ラマダン月には授業に関係なく断食をしなければならない。断食はさすがに学生たちもしんどいと聞いて、宗教上だからしんどくないとは言わないのかと感じた。

・金曜日の12時、お祈り。イスラム教では金曜日の昼の集会在とても大切らしい。特に男性。朝見学させてもらったモスクには会場に入りきらない程の男性がいてみんな同じタイ

ミングで同じお祈りをしている様子を目にすることができた。信仰心の強さを改めて感じた。

- ・アルアザール大学での見学時、昼の祈りの時間になると一斉にモスクへ集合して祈りをはじめていた。モスクには学生だけでなく、周辺の住民も集まってきていて、祈りの間は車も仕事も一旦止めて、街全体が静けさに包まれるような雰囲気を感じた。このような時間があるのは多様性を受け入れ、自信もありのままあろうとするインドネシアの人々の人間性によるものなのかなと思った。

- ・バニサレ看護大学近くのクリニックの見学中、足元に虫が現れて、男性職員が対応してくれた。日本ではその場で潰したりしてしまうことがほとんどだが、その職員さんは外に逃がす対応をしていたので少し驚いた。振り返ってみると蚊や蠅なども積極的に潰そうとする様子もなく宗教的な理由もあるのかなと思った。

- ・モスクで、音楽が流れていてとても独特の音楽だった。初めて聞く感じの曲で、とても新鮮だった。この音楽を流してお祈りをするのだろうかと思った。日本でいうお経と同じようなものなのかなと思った。

(7) 感情表現・感情のツボ

(8) 物の使い方

(9) 金銭感覚

・

(10) 人生観

(11) 対人・コミュニケーション

・

(12) 教育・学習観

- ・看護大学でプレゼンをした。生徒がプレゼン中に水を飲んだり、おにぎりやお菓子を食べている姿を見て驚いた。後から、会議や集会の時には水と食べものが配られる食べながら聞いたり話をするのが普通と聞いて、日本との違いを実感できた。

(13) 異性・恋愛観

・

(14) 愛国心・忠誠心

・

(15) 外国語・異文化への関心

- ・ジャカルタ日本祭でコスプレをしている男性や女性を見つけた。日本と同じようにコスプレなどをして楽しむ文化がこっちにもあるんだなと思った。

- ・浴衣を着て祭に行った。写真をとってくださいとたくさん声をかけられた。日本にもすごく興味を持っている人がたくさんいるんだと感じた。

(16) 美容・ファッションへのあり方

(17) 道德観・マナー・感覚

(18) しぐさ・姿勢

(19) 生活習慣

.

(20) 時間の感覚

(21) 色彩感覚

(22) 味覚

.

【3】相手の思いを知るとはどういうことか

(1) コミュニケーションのあり方

・IMC 看護大学生とイオンモールでショッピング。1人の学生の子とペアになって12時から3時までほとんど2人でショッピングした。その子はあまり日本語を話すのも理解するのもまだ上手くはなかった。しかし、私が買いたいものを伝えと、とても親切に協力してくれた。私だったら、今日初めて会った外国人にここまで優しくできただろうかと思うほど温もりを感じた。

・日本語学科の大学へ行った。皆とても日本語が上手でとても驚いたと同時に昨日からのこともあり、インドネシア語が話せたらとも思った。とても笑顔で歓迎してもらい、プレゼンテーションもしやすかった。おかげで原稿を見ずに前を向いて話せたのは良かった。

・ボゴール植物園に行った。大統領の宮殿を見られてとても嬉しかった。とても公園は広く、道で会ったインドネシアの方も話しかけてくれて、インドネシアの国民性を感じることができた。フレンドリーであり、何かあったときに支え合っていることを聞いていたので、つながったとともに家族が多いことがやはり問題になることもあるのだと思った。

(2) 関わりによって理解

・IMC の学生と交流した。ご飯を食べたり、プレゼント交換をしたり、イオンで買い物に行き付き合ってくれた。私の長い買い物にも付き合ってくれて、質問にも丁寧に答えてくれた。最後の別れの時に寂しくて涙が溢れそうになった。数時間という短い時間でとても仲良くなれた。実際に喋って交流することで相手のことを知ろうとすることは大切だと感じた。

(3) 共通言語・相手の文化理解

(4) 日本・日本人のイメージを意識

・ジャカルタ、日本祭にて。日本とジャカルタの交流が60周年で日本企業が主にスポンサーとしてイベントを開催していた。音楽祭もあり、日本の歌もインドネシア人が歌えていたので、日本人として嬉しかった。100年前までは、このように公に国際交流ができない時代だったのに、これからは国に関係なく人々が交流し合えるようになるのだと感じた。

・クリニックに見学に行った。日本式に変える工夫をしていたり、多くのptの検診の人が日本人である。日本語学科卒の人や日本でNsをした人が多くいて、とても驚いた。ダニーもとても丁寧に説明していただき分かりやすかった。私も頑張りたいと思えた。

・イオンへ行った。日本のレストランやお店がとても多くて驚いた。日本語を勉強中で、また英語もあまり伝わらなくて、説明が難しかったが、ジェスチャーなどを使ったりと工夫して、とても仲も深まり、少しずつコミュニケーションもとれてとても嬉しかった。バティックというインドネシアの伝統のものが見ることができ、新しいものにふれることができ嬉しかった。

・IMCの学生と一緒に行動した。自己紹介の後、ソーラン節を踊り、ペアでプレゼント交換をした後、イオンへ向かった。IMCの学生さんが日本の音楽に合わせて歌詞とダンスが重なっていて、嬉しかった。ソーラン節を見た後、カッコいいなどほめてもらって、少しでも日本の良さが伝わったのかなと嬉しくなった。

・ジャカルタ日本祭でAKB48やスキマスイッチ、キコロが来た。皆日本語と一緒に歌っていてびっくりした!!!日本の音楽がインドネシアで歌われているとはとても素晴らしいことであると思った。

(5) その他

・インドネシアの空港に到着!!!!パスポートの確認の時に何て言ってるのかわからず困っていたら初めはしかめっつらしていた人が笑って「OK!」と言ってくれた。笑ってくれてとても嬉しかった。こっちが笑うと優しく笑ってくれて皆怖くないなと思った(見た目より)

・看護勉強会にて。3年間、日本で看護師助手として働き、日本の看護師国家試験を受験してあと少しで不合格となり、帰国することになってしまった方たちを支援する場を目の前で見ることができた。難しい日本語。何歳になっても挑戦する気持ち。どうにもできない経済面。と複雑な気持ちを共感できたと思う。

【1】生活に関する表象像の広がり

(1) 食

・コカ・コーラを買うと 2.99\$ 位するので、高いなと感じていたが、内容量が 591ml であり、日本よりも多いことに気づいた。カロリーの部分はとても大きく太く記載されていたので、カロリーを気にするように表示されているのかなと思った。

・ホストファミリー内での会話で、アメリカ人は寿司プラスご飯を注文している人もいたり、一方ではベジタリアンでチキンのスープでさえも嫌だと拒む人がいることを知った。ベジタリアンは想像していなかったのも、色んな人がやはり存在することが分かった。

・友愛会の食事中にニンジンとレーズンを混ぜた食事が出たり、ホストファミリー宅の夕食でサラダにブルーベリーが入っていたり、日本ではデザートやお菓子感覚で食べる物が入っていて食文化の違いをととても感じた。

・ロスガトス高校にて。売店と学食を見た。売店ではカップヌードルも置いてあり、皆お湯を入れて食べていた。日本はお弁当の文化があって、とてもバランスの取れた食事をしているなと思った。

(2) 衣

・サンフランシスコのカストロにて。男性が街を全裸で歩いていた。何人もいたので驚いた。法律的には大丈夫なのだろうかと思った。

・サンノゼ州立大学看護学部にて。ナース服で登下校し、学校の敷地内もナース服で移動していた。私の大学ではナース服はケアを行う時に着るものという少し特別なイメージがあったので驚いた。

・ゴールデンビレッジという赤い橋を渡った時に、上半身裸の人がランニングをしていた。日本では上半身裸でランニングする人はあまり見たことがないので、気温や文化の違いかなと思った。

(3) 住居

・ホストファミリー、きれいで広い離れの小屋を提供してくれた。とてもくつろげたし、旅のつかれを十分にとれた。

(4) 清潔・衛生

(5) 日課・定期的習慣

(6) 物価

(7) 交通

・ホストファミリーデーで観光としてサンフランシスコまで連れていってくれた。車で連れていってくれたが、道路で 65 出しているわりに、とても早いなと思っていたら、マイル表

示であった。なので104km/h出していて、そら速いわと思った。

- ・サンフランシスコやサンノゼの道路の路肩全て埋まるくらいに車が止まっていた。駐車場が足りないためこのようなことになっていると言っていた。日本との違いを感じた。

- ・駐車している車を見ると、車の頭の方から駐車していることがよく見られた。日本では、自宅の駐車場でもバック駐車している車が多いので日本との違いを感じた。

- ・ホストファミリーデーにて。モントレイに行った。サンノゼでは道路にずら一と車が路中されていたが、モントレイでは路肩にパーキングのように駐車代を払う機械が設置されていた。日本のようなパーキングだけのための土地はサンフランシスコにあったが、日本ほど嚴重ではなかったなと思い出した。

(8) 健康・美容・医療

- ・病院見学にて。新しい病棟のナースステーションが1つのフロアに3つほど分かれていて分担されていた。しかし、1つのステーションに集まることはないので、情報の共有があまりできない環境だったので、日本の病院の方が設計的にはとても素晴らしいと思った。

- ・病院見学にて。100kg、200kgある人が多くいるアメリカでは最新の体重を測れるやつや、持ち上げられるやつがあった。日本ではだいたい100kgもいかないので、そのような特殊な物は必要ない。その国の人の特徴によっても使う機械が違うと感じた。

- ・今日は友愛会と日本町に行った。友愛会では日系アメリカ人の方たちへの支援だったり、つながりを知ることができた。関わったとき、みなさんととても元気でよく話してくださったが、90歳の方とかいたと聞いたときとてもおどろいた。

- ・ヴァリメディカルホスピタルにて。カリフォルニアの3分の1をカバーしてるほどの大病院だった。印象的だったのはリハビリテーション室で最新の機器をみたこと。脊髄損傷の患者に力を入れているようで天井には必ずぶら下げられるレールが用意されていた。それは250kgまで耐えることができる。日本は帰宅しても普段の生活が送れる保障がなければ帰れないがアメリカは歩けるまでが目標ではないので退院がとても早いので驚いた。

- ・病院見学にて。ナースステーションが病棟の中心ではなく、四つの端にそれぞれ小さなナースステーションが設けられていた。ナースステーションがバラバラに分かれていると医療者同士の連携をとるのが大変そうだなと思った。

- ・病院見学にて。患者を吊り上げて移動させると同時に体重を測れる機械やリハビリのための大きなプールや日常生活を1人で行うリハビリのための普通の家のようなつくりのリハビリ部屋があったりと、初めて見るような発展した機械があり驚いた。

- ・アメリカでは、ナースが実際の状況を見て判断し、医者は何も見なくても医者からOKが出たら、薬を出してもらえるので、とても責任の重さが日本とは違うなと感じた。

- ・病院見学にて。日本の個室とアメリカの個室を比べてみると、広さやベッドの高さも違った。シャワーやトイレもずっと立派だったが、1人のptは少し広すぎて寂しそうだなと感じた。一人部屋以外はあまりなく新しい建物も個室が多かったので、4人部屋の多い日本とは少し違うなと思った。

(9) 制度・社会的環境

・大きな橋を歩いた。海風が強く寒かったがとてもきれいだった。海(港)の真ん中にあった小さい島は昔かんぐくと聞いて見たが普通の家にしか見えなかった。

・日本街見学にて。街の案内をしてもらっている時に「この建物は地震でいつ倒れてもおかしくないのだから今は使われていない」と言っていた。レンガが崩れかけていて、隣にも他の店があったし、道路狭いので、もし急に倒れたら危険だと思った。危ないと思っけていても建物を壊さないのはなぜだろう！

(10) 経済（・産業）

・サンフランシスコは海に面していて漁がさかんと聞いて、街を歩いていたら魚貝類を多く売っていたり船が多く見られた。

(11) 教育・学校・学生生活

・サンノゼ州立大学内にあるヘルスセンターにて。大学の医療機関で学生のためにとても大きな施設と十分な医療者が与えられていた。困ったらここに来ればよいと思えるだけでも学生は安心すると考えた。毎日150人もの学生が訪れるらしい。なくてはならないものだと思う。

・ロスガトス高校にて。学内の様々な教室を案内していただいた。バンドやオーケストラ、装飾、機械、言語など幅広い分野の選択が行っていた。日本では高校の選択といたら3つしかなかったもので、違いを感じた。学生たちはお互いに意見交換しながら生き生きしているように見えた。

・サンノゼ州立大学のヘルスセンターケアセンター。メンタルヘルス、薬局、医療者の在中など、ヘルスケアの体制を学んだ。私の大学では臨床心理士によるケアが週何日か時間が設けられているが、アメリカは体制がより手厚いと思った。24時間の電話相談もでき、不安を抱く生徒にとっても安心できる存在であると思った。

・サンノゼ州立大学看護学部にて。実際に病院で働いている看護師が生徒の実技の演習に加わり、サポートしていた。60人を20人ずつに分ける少人数で、サポートも強いなと思った。日本の大学でもこのように看護師が来ている所があるのだろうか？

・サンノゼ州立大学看護学部にて。実習の時に、患者のアセスメントを行う時には私たちのように指定の紙はなく、自分で考えて行うと言っていた。授業で先生の方法などを学びながらも、自分が患者をアセスメントするのに最もわかりやすくまとめられ、働き始めてからも自分なりにしっかりできそうだったと思った。

・ロスガトス高校にて。高校生であるのに、大人びた顔つきと身長だった。でも、行動は青年のようで、教室内はザワザワ。それでも先生はあまり怒らず、チーンと鳴らして、3, 2, 1の合図で静かにするようにしていた。とても自由な部分を見ることができた。

・ロスガトスの高校で図書館へ行った。日本の図書館だと静かにするのがあたり前だが、ザワザワしている雰囲気、アメリカと日本のルールの違いを感じた。

・ロスガトス高校にて。うつや精神的に良くなかったりする子どものカウンセリングを行ったりする部屋を見て、日本ではこのようなシステムはないので、日本にない良い部分を知れてよかった。日本でも取り入れてほしいシステムだなと思った。

サンノゼ州立看護大学にて。ナース服は実技の時以外も着ていることを知った。日本ではそういう面がきちきちしているが、アメリカはそうでもないと分かった。そんなにきちきちしていない日本の文化との違いを感じた。

- ・サンノゼ州立大学ではその学校の病院があり、診察など授業料に含まれているため、Freeであることを知った。こんなに身近にあると、行きやすいし、初めてこのようなシステムを知れた。日本でも取り入れてほしい。

- ・アメリカの看護学部では本物の薬に似せた???の薬があったり、本当に脈があったり、目を閉じたり開いたりする模型があったり、とても充実したものがそろっていて、日本では見たことのない授業風景だった。

- ・ロスガトス高校のダンスパーティーに参加させてもらった。最初はダンスだけでなく、何かゲームとかあるのかなと思っていたが、本当に皆でわいわいさわぐパーティーだった。とても楽しかったし、本当の自分を出して、殻を破れそうだと感じた。

(12) 動物・ペット

- ・サンフランシスコのフィッシャーマンズワーフにて。野生のアシカを見に行った。観光客がたくさん集まっていて、観光スポットになっている。ウッドデッキのような板の上にアシカたちがいるのだが、ぎゅうぎゅうで海の中にいるアシカが中々板の上に登れない姿が愛らしく、人間が見とれていた。

- ・ホストファミリーの最後の日。 リバーボートで野生の動物たちを見るツアーに連れて行って下さった。日本では動物園や水族館でしか見れない、ラッコ、オットセイ、アザラシ、野鳥がたくさん生息していた。ラッコは貝をたたいてエサをゲットする。ツアーガイドさんが見せてくれた写真の中にはラッコがカメラをもって叩いている写真があった。人工物、人間が野生動物達にもたらす影響を考えさせられた。

(13) 商業

- ・ホストファミリーデーでモントレイに行った。その時にアイスクリームを頼んだのだ。日本ではだいたい番号などで商品ができた時は呼ばれるが、アメリカでは名前を聞かれ、名前と呼ばれた。日本との違いをととても感じた。

- ・パスタを食べに連れて行ってくれた。(ホストファミリー) ガーリックがぬってあるパン、スープがはじめに出てきて、ボリューム満点のパスタが出てきた。スープやパンは食べ放題で店員が何回も何も無い?大丈夫?おいしい?と聞いてきて日本との違いを感じた。

- ・ロサンゼルス空港のセブンイレブンで。日本のセブンイレブンはおにぎり、弁当、菓子、揚げものなどが置いてあるが、空港のセブンイレブンには日本で見たことない飲み物や食べ物が並んでいた。日本人の1人分ではないだろうと思えるぐらいの1つの量も多かった。同じ企業でもその土地に合わせた売り物になっていることに改めて気付いた。

- ・ユニバーサル・スタジオ・ハリウッドにて。私は大阪にあるユニバーサル・スタジオ・ジャパンに何度も行っているのですが、アメリカと日本の違いにおもしろさを感じた。スタジオツアーでは実際に撮影しているスタジオや建物を見学することができた。数々の映画がここで撮影されてきたことを思うと同じ場所に立てている喜びを感じた。水や火が急にでき

てびっくりしたが、お金のかけ方が普通じゃないなと思った。

・ロスガトス高校へ行った後に、ショッピングへ連れて行ってもらった。一つ一つがとても多かったり、大きかった。2個で〇〇\$という物も多く、とにかく量が多かった。日本の倍くらいの大きさでとてもお得感を感じた。

(14) 気候・自然・地形・地理

(15) 世界の中の位置づけ

(16) 言語・文化・歴史

・日本町では、日本とアメリカの歴史上の関係で、とても辛い生活をしいられていたり苦しい生活をしていたことを知り、日本には学べない歴史について学べた。

・日本町には日本語や日本食が多くたちならんでいてとてもなじみ深かった。

・ジャパニーズアメリカンミュージアムにて。移民として日本にやってきて発展してきた歴史を知った。アメリカの土地でやっと安定してきた生活は戦争によって壊されてしまう。そして、規制された生活の中でたくましく生きている日本人(ジャパニーズアメリカン)の姿が強く思い出に残った。戦争は誰のためのものなのか改めて考えさせられた。

・ジャパニーズアメリカンミュージアムにて。日本が戦争を起こしたことでサンノゼに住んでいた日本人がどのような生活を強いられていたかを学んだ。日本では感じられない日系アメリカ人の思いや生活を想像できた。

・LGBTの象徴を表す虹色のような旗が立っている道を見た。全裸で何かしている様子だったが、それは日常茶飯事の出来事らしく、日本では絶対に捕まってしまう行為だけど、大丈夫なんだなと思った。

・ジャパニーズアメリカンミュージアムにて。昔、日本人が収容されていた施設の実際に再現されたのを見た時に、6m×6mの小屋に2組の家族が住んでいて、すごい環境の中で生活をしていて、今まで知らなかった歴史が見えた。もっともっと今まで日本がしてきたことに関心を持つべきだと思った。

【 2 】 自己と他者の違い・共通性に気付く

(1) 健康観

(2) 家族観

(3) 子育てのあり方

(4) 職業観・働き方

・ハリウッド観光に行く時にタクシーに乗った。すると、タクシーの運転手が違う会社のタクシーの運転手と口げんかを始めた。私たちはお客さんなのに、とても不愉快だった。そし

で怖かった。日本だとお客さんの前でこんなにけんかすることあまり見たことなかったの
で驚いた。

- ・グリフィス天文台へ行った。その途中、Hollywood が見える位置で送迎の車の運転手がわ
ざわざ止まって写真を撮ってくれたり、帰りには夕食の場所を教えてくれたり、とてもサー
ビス旺盛な部分を見ることができた。

- ・サンノゼ空港やロサンゼルス空港にて、警備員の方が何も私達から言わずに写真を撮って
くれたり、荷物の場所を教えてくれたりして、とても積極的に接してくれた。日本だと聞か
れたりした時に答えることが多かったりするので、違いを感じた。

(5) 歴史観

(6) 宗教観・信仰心

(7) 感情表現・感情のツボ

- ・友愛会にて、出し物を行った。楽しそうにレクリエーションできていたが、笑うツボが違
ったりした。例えば、福笑いで変な顔になった時など、そのようなことを感じた。笑いのツ
ボが違う時もあるのかなと思った。

(8) 物の使い方

(9) 金銭感覚

- ・ロスガトス高校の生徒2人に高校周辺の案内をしてもらった。その時に、ハンバーガーを
一緒に食べた。高校生でもクレジットカードを持っており、私が高校の時には考えられな
かったことだなと思い驚いた。

(10) 人生観

(11) 対人・コミュニケーション

- ・大きなショッピングモール<ザ・グローブ、ファーマーズマーケット>から Hollywood &
Highland へ行くためにタクシーに乗った。私たちは5人なので、大きめのタクシーを見つ
け、乗りこんだ。乗った瞬間、前に待っていた最大4人乗りのタクシーの運転手がすごい怒
りながらやってきた。暴言を言いまくってさっていった。恐くはなかったが、不満なことが
あれば必ず主張するのだなと感じた。日本ではあまり見られない光景に感激している自分
がいた。

- ・デルタ航空にて。ドリンクのカップのゴミを回収してもらおうと渡そうとしたら日本人の
添乗員さんが「今、回収してないよ」と強い口調で言った。日本の航空会社はより丁寧な言
葉や対応であると感じた。

- ・ロスガトス高校にて。私たちへの質問はないか？と問いかけた時、多くの生徒が手を上げ、
何度も質問をしてくれた。プレゼンをする前に自己紹介をただけであったのに、様々な興
味を示してくれた。日本では質問などがボンボンでることは少ないのではないかと思った。

・サンノゼ州立大学の図書館にて。エスカレーターで一緒になったおじさんが「どこから来たの?」と話しかけてきた。学生ともジョークを言い話しており降りてからも話をしてくれた。知らない外国人にも気さくに話しかけてくれ、日本ではあまりないなと思った。

・ロサンゼルスにて。空車のタクシーに乗りこんだら、前に止まっていたタクシーの運転手がこちらのタクシーの運転手にどなってきた。「私が先に待っていたのに。私は今日～円かせいだんだぞ。」といったニュアンスのことを言っていた。どなり続けて言い合いのようになり怖かった。あれほど公共の場で感情をあらわにする人は日本ではあまり見られないと思った。

・ロサンゼルスへ向かう飛行機内のC Aの人が日本語を話して下さったが、少し口調がきつかった。ずっとニコニコしている日本との違いを感じられた。また、今はゴミは持てない、など、ハッキリと客にも言っていた。

・ジャパニーズタウンの場所にさら地があり、そこにビルが建つことになっていると聞いた。しかし、街並を崩すことになるということで反発されているらしい。しっかりと意見を持って政府にも言うらしいので、その部分がとても良い文化だと思った。

・友愛会の食事の後、2階から1階に下りようとする、遠くから日本からお手伝いに来たの?と声をかけられ、しばらく話をした。日本だとわざわざ遠くの人に声をかけないので、色々な人に声をかけられるアメリカ人の性格がとても好き。

・ロスガトス高校で。プレゼンを行った。その時に、河原さんが質問をしてみると、とてもリアクションが活発で、アメリカで暮らす人達の自由性をとても感じ、もっと私も主張できるようになろうと思った。

(12) 教育・学習観

・ロスガトス高校にて。授業の様子を見て、手をあげて発表たがっていたり、ゲームを始めたらすごく喜んでいたりしていた。日本の高校に比べ積極的に授業に参加しており先生の問いかけにたいする反応も大きいと思った。

・ロスガトス高校にて。授業が終わるベルがなったら、学生たちはすぐ教室を出ていった。日本では、先生が完全に終わりを告げるまで多少授業が延長することがあるので、日本とは違うと感じた。

(13) 異性・恋愛観

(14) 愛国心・忠誠心

(15) 外国語・異文化への関心

・高校の日本語学生のところに行った。レベルによってはとてもスムーズに日本語を話していておどろいた。どうして日本語を学んでいるかと聞くと日本に興味があり、行きたいだったり、アニメなどの日本の漫画をもっとのしみたいとのことだった。興味があつて学ぶとこんなにのびのびと学べるんだと思った。

(16) 美容・ファッションへのあり方

・ダンスパーティーにて。中高校生がテーマに合わせてしっかりとドレスアップして楽しそうにダンスをしていた。日本ではあまり見られない光景で文化の違いを感じた。

(17) 道徳観・マナー・感覚

(18) しぐさ・姿勢

(19) 生活習慣

(20) 時間の感覚

(21) 色彩感覚

【3】相手の思いを知るとはどういうことか

(1) コミュニケーションのあり方

・ロサンゼルス空港にて。集合写真を撮ろうとしていたら、警備のおじさんが「先生も入って写真を撮るよ」と声を掛けてくれた。その後、写真と一緒に入ってくれ、道を途中まで案内してくれた。こちらから頼んだ訳でもないのに、声を掛けてくれ、とても優しいと思った。

(2) 関わりによって理解

・ホストファミリーとてもやさしかった。
・ロスガトス高校の日本語学科にて。優しいレベルのクラスと日本語が少し話せる上級のクラスで発表を行った。はじめのクラスは英語で、次のクラスは日本語で日本や大学の紹介をした。見た目は大人だが、14ー17歳の人達なので反応は子どもっぽかった。相手が聞きやすいように工夫して発表する大切さを改めて感じた。

(3) 共通言語・相手の文化理解

・掃除の人が歌を歌いながらお仕事をしていたり、ホームステイ先の旦那さんや奥さんが歌を小声でうたっていたりして、自分の持つ世界があるような感じがとても好きだった。人に気を遣いすぎない文化がとても素敵。

(4) 日本・日本人のイメージを意識

・クラスも日本の技術がとり入れられたものや、作品があり、日本について学んでいるのがすごいと思ったし、うれしかった。

(5) その他

・飛行機に14時間ほど乗った。時差や人の気配でとても熟睡は出来なかったため体がきつかったが楽しかった。
・パスポートが6ヶ月以内だと機械処理できずに少し面倒だった。
・(空港) プリントをすべて渡してカタコト英語で乗りきった。

